

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 平成31年3月22日

グループ名	東京都学校保健研究会調査研究部	フリガナ 代表者氏名	カツラギ 葛木 有紀
学校名	練馬区立田柄中学校	電話番号	03-3990-4403
研究テーマ	発達障害・特別支援教育における養護教諭の役割～対応のスタンダードを探る～		
研究期間	平成29年4月 日 から 平成31年3月 日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	1 基礎研究（参考資料の収集） （1）先行研究の分析（2）平成27・28年度調査研究部研究報告の分析 2 調査研究（養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育に関わるアンケートの実施） （1）平成29年度養護教諭を対象に実施（2）平成30年度教諭を対象に実施 3 実践研究（特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール） （1）知識や技能の「何が必要か」を明確化し自己評価できる「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」（2）課題解決を図りながら日々の実践に生かせる「事例編」（3）推薦図書や研修案内などを紹介した「資料編」 以上の調査や実践を2年間にわたり研究した結果、明らかになったことは以下である。 1 基礎研究の結果 ①特別支援教育コーディネーターには、特別支援教育に関する知識や支援方法の理解が必要であり、養護教諭の専門性が求められ、任命されることが増えている。②養護教諭は発達障害をもつ児童・生徒に関わる機会が多く、個別支援を行いやすい立場にあり、一人一人の実態を把握しやすい。③養護教諭の多くが、現在行っている支援方法や校内の連携に課題を感じている。 2 調査研究の結果 ①養護教諭の困っていることは、各校種で共通して「児童・生徒の問題行動の対応について」であった。②知りたいことや悩んでいることは、各校種で共通して「児童・生徒支援（校内での支援や配慮）」「教職員の知識・理解」であった。③多くの養護教諭が取り組んでいる効果的な支援や、使用しているグッズ。④養護教諭が特別支援教育コーディネーターをしているかどうかに関わらず、教諭が「特別支援教育に関して主に相談する人」に養護教諭をあげた人数が多かった。つまり、教諭は特別支援教育において養護教諭の専門性に期待していることが推察される。⑤養護教諭と教諭の双方から比較分析することで、特別支援教育において、教諭が養護教諭に求める資質・能力が明らかになった。 3 実践研究の結果 上記（1）～（3）から構成された、特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール「サポートブック」の製作は、2年間の研究のまとめとなる成果物である。 私たち養護教諭は、教諭とは違った視点や角度から子供たちの心と体の状態を捉えることができ、学校全体を広い視野でとらえ臨機応変に動くことができる。こういった養護教諭が本来もっている特性を生かしながら、本研究で作成したサポートブックを活用することが、特別支援教育推進のためになることを期待する。		
その他特記事項			

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 平成31年 3月14日

グループ名	東京都学校保健研究会調査研究部	フリガナ 代表者氏名	カツラギ 葛木 有紀
学校名	練馬区立田柄中学校	電話番号	03-3990-4403
研究テーマ	発達障害・特別支援教育における養護教諭の役割～対応のスタンダードを探る～		
研究期間	平成29年4月 日 から 平成31年3月 日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	1 基礎研究（参考資料の収集） （1）先行研究の分析（2）平成27・28年度調査研究部研究報告の分析 2 調査研究（養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育に関わるアンケートの実施） （1）平成29年度養護教諭を対象に実施（2）平成30年度教諭を対象に実施 3 実践研究（特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール） （1）知識や技能の「何が必要か」を明確化し自己評価できる「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」（2）課題解決を図りながら日々の実践に生かせる「事例編」（3）推薦図書や研修案内などを紹介した「資料編」 以上の調査や実践を2年間にわたり研究した結果、明らかになったことは以下である。 1 基礎研究の結果 ①特別支援教育コーディネーターには、特別支援教育に関する知識や支援方法の理解が必要であり、養護教諭の専門性が求められ、任命されることが増えている。②養護教諭は発達障害をもつ児童・生徒に関わる機会が多く、個別支援を行いやすい立場にあり、一人一人の実態を把握しやすい。③養護教諭の多くが、現在行っている支援方法や校内の連携に課題を感じている。 2 調査研究の結果 ①養護教諭の困っていることは、各校種で共通して「児童・生徒の問題行動の対応について」であった。②知りたいことや悩んでいることは、各校種で共通して「児童・生徒支援（校内での支援や配慮）」「教職員の知識・理解」であった。③多くの養護教諭が取り組んでいる効果的な支援や、使用しているグッズ。④養護教諭が特別支援教育コーディネーターをしているかどうかに関わらず、教諭が「特別支援教育に関して主に相談する人」に養護教諭をあげた人数が多かった。つまり、教諭は特別支援教育において養護教諭の専門性に期待していることが推察される。⑤養護教諭と教諭の双方から比較分析することで、特別支援教育において、教諭が養護教諭に求める資質・能力が明らかになった。 3 実践研究の結果 上記（1）～（3）から構成された、特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール「サポートブック」の製作は、2年間の研究のまとめとなる成果物である。 私たち養護教諭は、教諭とは違った視点や角度から子供たちの心と体の状態を捉えることができ、学校全体を広い視野でとらえ臨機応変に動くことができる。こういった養護教諭が本来もっている特性を生かしながら、本研究で作成したサポートブックを活用することが、特別支援教育推進のためになることを期待する。		
その他特記事項			

「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」～対応のスタンダードを探る～

1 研究の背景

- (1) 心身の不調や、課題を抱える児童・生徒の多岐多様に渡る来室や関わりが増加する中、養護教諭は、一人一人に寄り添い接している。
- (2) 特別支援教育コーディネーターを兼務する養護教諭が多い中、「チームとしての学校」において、その責務を果たそうと奮闘しつつ、本来の役割や専門性とは何か、どう生かしていけばよいか、悩み模索している。
- (3) 周囲の教諭や保護者から、養護教諭によって対応や知識理解の差があるといった声が上がっている。

2 研究の目的

- (1) 養護教諭の職務における保健室での対応を中心とした特別支援教育の実践事例の収集から、専門性を探る。
- (2) 特別支援教育における「チームとしての学校」の一員として、養護教諭の専門性をどう生かしていくか探る。
- (3) 経験年数や校種、知識や技量に関わらず、どの養護教諭にも共通した特別支援教育における対応のスタンダードを探る。

3 研究の方法

- (1) 基礎研究（参考資料の収集）
 - ① 先行研究の分析
 - ② 平成 27・28 年度本研究会調査研究部研究報告「発達障害に関する研究調査 ～成長段階に応じた支援の検討～」の分析
- (2) 調査研究
 - ① 平成 29 年度：本研究会会員他、東京都公立学校養護教諭を対象とした「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」に関するアンケート調査
 - ② 平成 30 年度：上記アンケート調査に回答した学校の教諭を対象とした「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」に関するアンケート調査
- (3) 実践研究
 - ① 特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール「サポートブック」の作成。
 - ア 知識や技能の「何が必要か」を明確化し自己評価できる「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」
 - イ 課題解決を図りながら日々の実践に生かせる「事例編」
 - ウ 推薦図書や研修案内等を紹介した「資料編」

4 研究の結果

- (1) 基礎研究の結果
 - ① 特別支援教育コーディネーターには、特別支援教育に関する知識や支援方法の理解が必要であり、養護教諭の専門性が求められ、任命されることが増えている。
 - ② 養護教諭は発達障害をもつ児童・生徒に関わる機会が多く、個別支援を行いやすい立場にあり、一人一人の実態を把握しやすい。
 - ③ 養護教諭の多くが、現在行っている支援方法や校内の連携に課題を感じている。
- (2) 調査研究の結果
 - ① 平成 29 年度アンケート結果のカテゴリー化より
 - ア 養護教諭の困っていることは、各校種で共通して、「児童・生徒の問題行動の対応について」であった。
 - イ 知りたいことや悩んでいることは、各校種で共通して、「児童・生徒支援（校内での支援・配慮）」「教職員の知識・理解」であった。
 - ウ 多くの養護教諭が取り組んでいる効果的な支援や、使用しているグッズが明らかになった。
 - ② 平成 30 年度のアンケート結果
 - ア 養護教諭が特別支援教育コーディネーターをしているかどうかに関わらず、教諭が「特別支援教育に関して主に相談するに、養護教諭をあげた人数が多かった。教諭は特別支援教育において、養護教諭の専門性に期待していることが明らかになった。
 - イ 養護教諭と教諭の双方から比較分析することで、特別支援教育において、教諭が養護教諭に求める資質・能力が明らかになった。

(3) 実践研究の結果

①「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」について

チェックシートの項目は、平成 29 年度に実施したアンケートより抽出した言葉から、類似したものを分類したカテゴリーを軸に作成した。養護教諭の特別支援教育の実践における基礎的・基本的な内容をふまえた「**basic (ベーシック)**」と、さらに発展した対応の「**advanced (アドバンス)**」の 2 種類からなり、4 段階でチェックでき、カテゴリーごとや全体の点数評価もでき、自身の課題を明確化できるようになっている。

②事例編について

平成 29 年度のアンケートの設問に、詳しい回答のあった方を追跡調査の対象とし、聞き取り調査を実施した。すでに多くの養護教諭が取り組んでいる事例を、専門家の助言も踏まえ、広く現場で活用できるものとした。事例には、基本的な配慮事項や、支援のステップアップをはかれる内容も取り入れている。（例：クールダウン、保健行事、健康相談など）

③資料編について

チェックシート項目の課題解決の方策として、事例編で取り上げていないものを編集した。また、参考資料や研究部員の推薦図書、研修情報などの紹介を加え、養護教諭の支援ツールになる資料を掲載した。

5 総合考察

特別支援教育における「チームとしての学校」の一員である養護教諭の実態として、次のことが研究により明らかになった。まず、特別支援教育コーディネーターを兼務する養護教諭が多く、任命される背景には、養護教諭のもつ専門性が、特別支援教育の推進に重要な役割を果たし、その働きが評価されているからだと推察される。また、養護教諭は、特別支援教育コーディネーターの任命に関わらず、特別な支援を必要とする児童・生徒に関わることは多く、特別支援教育を推進していく上でのキーパーソンとして期待されていると考えられる。校種によって、その関わり方に違いはあるが、養護教諭のもつ専門性は共通している。

その反面、養護教諭にとっては、「チームとしての学校」の中で調整的な役割をもつはずが、特別支援教育コーディネーターとして中心的役割を担うことで、本来あるべき学校保健活動の役割が十分に果たせないと感じる実態がある。

そのような、養護教諭の声にスポットをあて、本来の職務における専門性を高めながら、校内での役割を果たしていくことができないかと考え、2 年間の研究に取り組んだ。

実践研究の結果で示した、養護教諭のための特別支援教育チェックシート、事例編、資料編の 3 点からなるサポートブックは、養護教諭に行ったアンケート結果が基になっている。それは、各学校で日々奮闘する養護教諭たちの声であり、同様の課題に直面した時に、課題解決のヒントになるはずである。

ガイドライン等で、特別支援教育における養護教諭の役割が明記されたものはあったが、養護教諭自身が職務を振り返ることができるツールは貴重である。このチェックシートは本研究ならではのものであり、事例編で扱った内容は、特別な配慮を要する場合だけでなく、ユニバーサルデザインの効果をもつ実践も取り上げている。また、資料編には、あらゆる参考文献からの引用や、研究部員推薦の図書などを紹介しているため、活用し参考にしてほしい。「チームとしての学校」の中で、養護教諭の専門性を生かし、「養護教諭だからできること」を追求するために、この 2 年間の研究成果が一助となれば幸いである。

6 参考文献

- 1) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～，平成 29 年 3 月
- 2) 全国養護教諭連絡協議会：養護教諭に関する職務の調査報告書，平成 22 年
- 3) 静岡県養護教諭研究会：養護教諭実践事例集 1 1 特別支援教育における養護教諭の役割
- 4) 鎌塚優子：インクルーシブ教育における養護教諭の役割，日本健康相談活動学会誌，Vol. 12，No.1，2017
- 5) 松浦 俊弥：インクルーシブ教育における養護教諭の役割―校内のキーパーソンとなるセルフスキルアップ―，日本健康相談活動学会誌，Vol. 12，No.1，2017
- 6) 矢野洋子・荒木みなみ・猪野善弘：発達障害の子どもへの支援に求められる養護教諭の役割 I，九州女子大学紀要，第 52 巻，1 号
- 7) 林 幸範・石橋裕子・小杉幹子・今林俊一・林 廣徳：特別支援教育に関する研究（2）―養護教諭が認識する特別支援教育の役割―，こども教育宝仙大学紀要，4
- 8) 石橋裕子：特別支援教育に関する研究―特別支援教育における小・中・高校の養護教諭の役割―，帝京科学大学紀要，Vol. 10(2014)PP. 137-146
- 9) 金子紬子・横田 雅史：特別な教育的支援の必要な子どもへの養護教諭としてのかかわりに関する研究，愛知みずほ大学
- 10) 関根 夢・大庭重治：特別支援教育における養護教諭の位置づけに関する現状と諸課題，上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要，第 21 巻，5-9，平成 27 年 3 月

テーマ 「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」～対応のスタンダードを探る～

1 研究の背景

- (1) 心身の不調や、課題を抱える児童・生徒の多岐多様に渡る来室や関わりが増加する中、養護教諭は、一人一人に寄り添い接している。
- (2) 特別支援教育コーディネーターを兼務する養護教諭が多い中、「チームとしての学校」において、その責務を果たそうと奮闘しつつ、本来の役割や専門性とは何か、どう生かしていけばよいか、悩み模索している。
- (3) 周囲の教諭や保護者から、養護教諭によって対応や知識理解の差があるといった声が上がっている。

2 研究の目的

- (1) 養護教諭の職務における保健室での対応を中心とした特別支援教育の実践事例の収集から、専門性を探る。
- (2) 特別支援教育における「チームとしての学校」の一員として、養護教諭の専門性をどう生かしていくか探る。
- (3) 経験年数や校種、知識や技量に関わらず、どの養護教諭にも共通した特別支援教育における対応のスタンダードを探る。

3 研究の方法

(1) 基礎研究（参考資料の収集）

- ① 先行研究の分析
- ② 平成 27・28 年度本研究会調査研究部研究報告 「発達障害に関する研究調査 ～成長段階に応じた支援の検討～」の分析

(2) 調査研究

- ① 平成 29 年度：本研究会会員他、東京都公立学校養護教諭を対象とした「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」に関するアンケート調査
- ② 平成 30 年度：上記アンケート調査に回答した学校の教諭を対象とした「養護教諭の関わる発達障害・特別支援教育」に関するアンケート調査

(3) 実践研究

- ① 特別支援教育における養護教諭の専門性を発揮するための課題解決支援ツール「サポートブック」の作成。
 - ア 知識や技能の「何が必要か」を明確化し自己評価できる「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」
 - イ 課題解決を図りながら日々の実践に生かせる「事例編」
 - ウ 推薦図書や研修案内等を紹介した「資料編」

4 研究の結果

(1) 基礎研究の結果

- ① 特別支援教育コーディネーターには、特別支援教育に関する知識や支援方法の理解が必要であり、養護教諭の専門性が求められ、任命されることが増えている。
- ② 養護教諭は発達障害をもつ児童・生徒に関わる機会が多く、個別支援を行いやすい立場にあり、一人一人の実態を把握しやすい。
- ③ 養護教諭の多くが、現在行っている支援方法や校内の連携に課題を感じている。

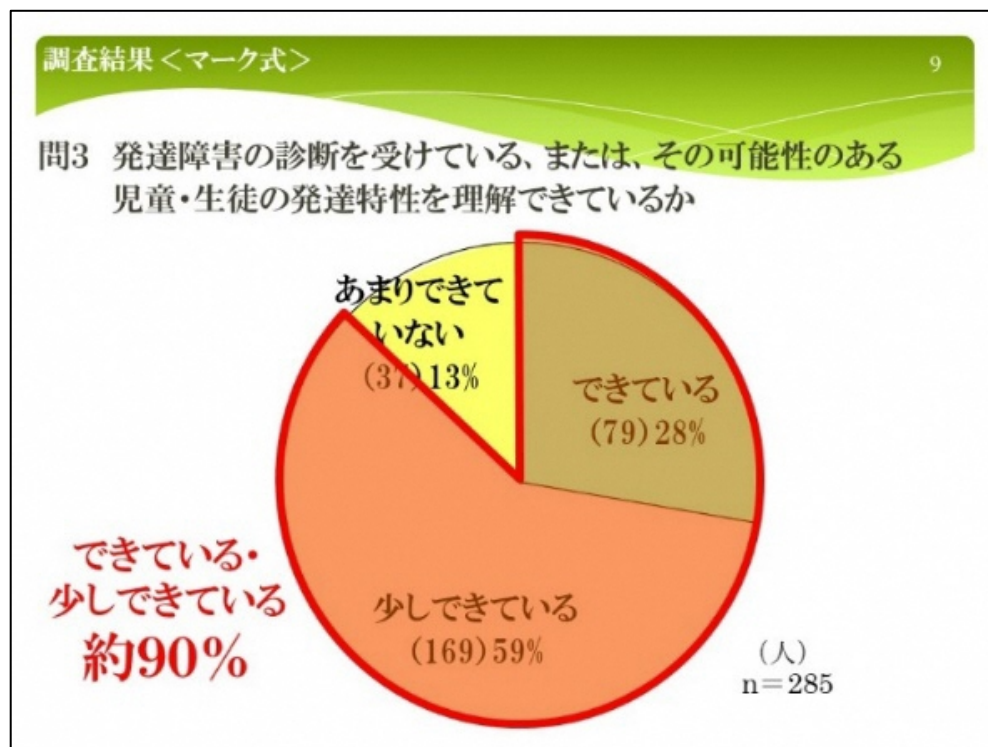
(2) 調査研究の結果

平成 29・30 年度に実施したアンケートを基に研究を進めてきた。

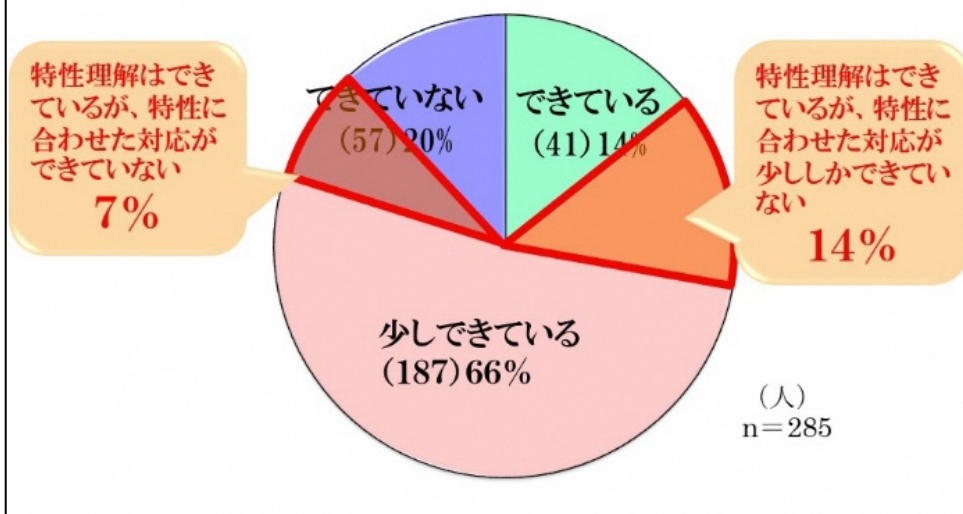
(1) アンケート実施内容

	平成 29 年度アンケート	平成 30 年度アンケート
対象	東京都学校保健研究会会員他 東京都公立学校養護教諭に配布	養護教諭が特別支援教育コーディネーターを兼務している学校と、兼務していない学校の教諭に、各 100 名ずつ計 200 名配布。
目的	養護教諭が、「発達障害」「特別支援教育」に関してどのように関わっているのか実態を把握するとともに、実際に直面している課題を明らかにする。	特別支援教育における、養護教諭に対する教諭側のニーズを探り、組織の円滑な連携に役立てる。
方法	アンケート調査（マーク式・自由記述式。）自由記述部分は、内容をコード化し、類似したカテゴリーに分けた後、さらにサブカテゴリーに分類する作業を行う。	アンケート調査（選択式） 昨年度、アンケートに回答した養護教諭の学校で行う。
回答数	285	181

①平成 29 年度アンケート結果



問4 発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒の発達特性に合わせた対応ができているか



問3、問4の質問の結果より、発達特性は理解できているという割合が高かった（約90%）ものの、特性に合わせた対応ができているかについては、割合が減少（80%）している。それは、配慮の必要な児童・生徒に対して、より適切な対応を行おうと試行錯誤を重ねている養護教諭が多いと考えられる。

次に、質問7「発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒の対応で、あなたが困っていることはありますか？」と、質問11「発達障害・特別支援教育について知りたいことや悩んでいること」の回答自由記述を同様に並べたところ、下表のようになった。3校種に共通しているカテゴリーは色掛けしている。

質問7 「発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒の対応で、あなたが困っていることはありますか？」

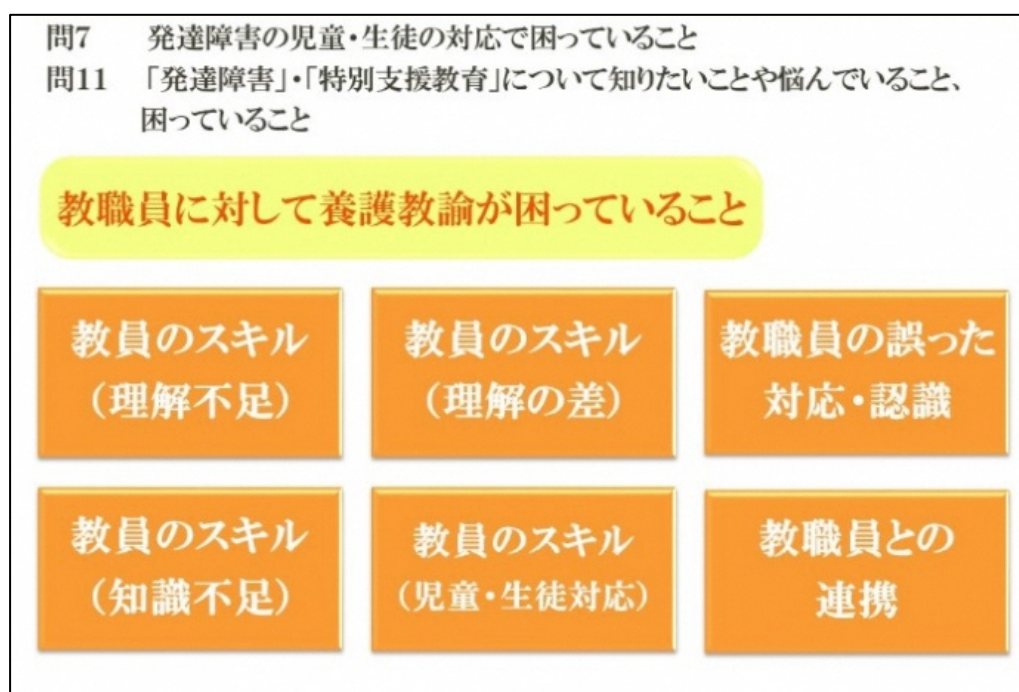
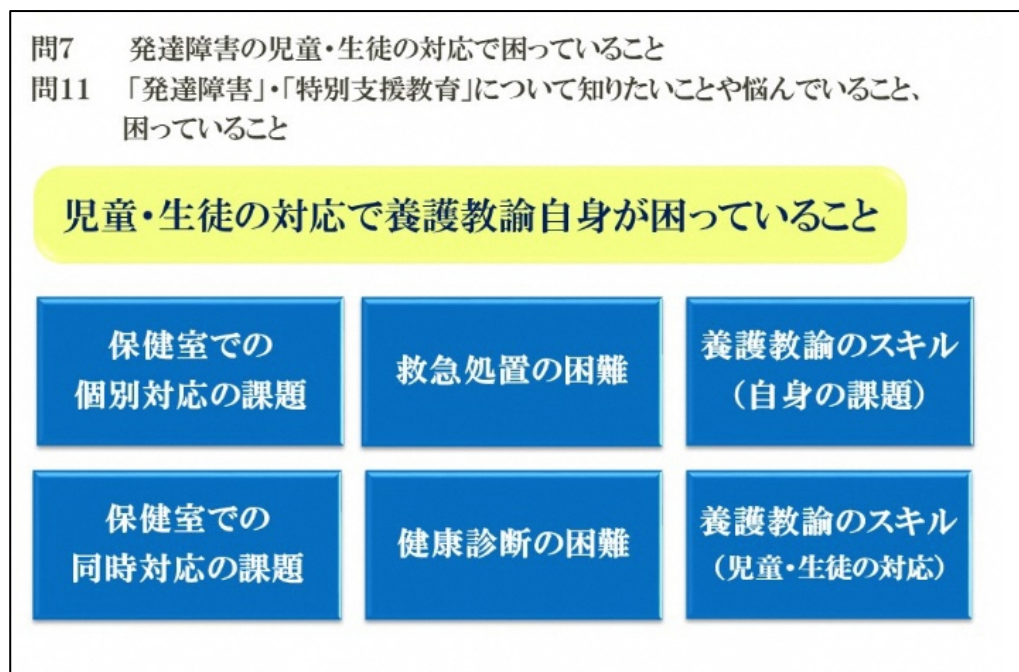
小学校		中学校		高等学校	
カテゴリー	コード数	カテゴリー	コード数	カテゴリー	コード数
児童・生徒の問題行動の対応について	2 5	養護教諭の職務	1 1	児童・生徒の問題行動の対応について	6
養護教諭の職務	1 7	保健室での対応	7	教員のスキル	5
保健室での対応	1 6	教員のスキル	7	保護者理解	4
		児童・生徒の問題行動の対応について	7		

質問11 「発達障害・特別支援教育について知りたいことや悩んでいることがあれば自由に記述してください。」

小学校		中学校		高等学校	
カテゴリー	コード数	カテゴリー	コード数	カテゴリー	コード数
児童・生徒支援（校内での支援・配慮）	2 1	児童・生徒支援（校内での支援・配慮）	1 4	児童・生徒支援（校内での支援・配慮）	9
校内体制	1 7	教職員の知識・理解	1 0	教職員の知識・理解	9
保護者対応	1 8	養護教諭の困り感	8	保護者対応	6
教職員の知識・理解	1 2	外部機関との連携	4	就学・進学（校種間連携含む）	5

この2つの表の結果から、児童・生徒の問題行動の対応について養護教諭の関わりが必須であることや、組織的な対応について、より理解を深めたいと考えている養護教諭が多いことがわかる。さらに、「チームとしての学校」として取り組んでいく上で、養護教諭自身のスキルアップだけでなく、他の教職員も同様に学びを深める必要があると感じていることが推察される。

また、質問7と質問11の結果をサブカテゴリ分類すると、養護教諭自身のものと教職員に対して感じるものが、それぞれどんなことに困っているのかが明らかになった。



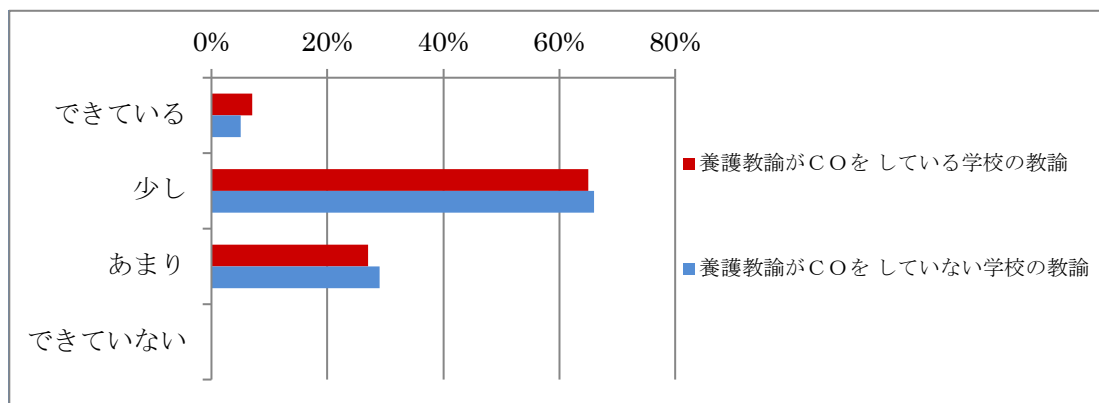
このような状況を改善するために、養護教諭の困っていることについて具体的な実践事例を共有し、自己研鑽の目安となる方法について検討した。それと並行して、教職員の連携が十分にできていない場合に、養護教諭がどのように働きかけることができるのか、まずは、組織の円滑な連携を図るために、養護教諭に対する教職員側のニーズを探るアンケートを実施した。

②平成 30 年度のアンケート結果

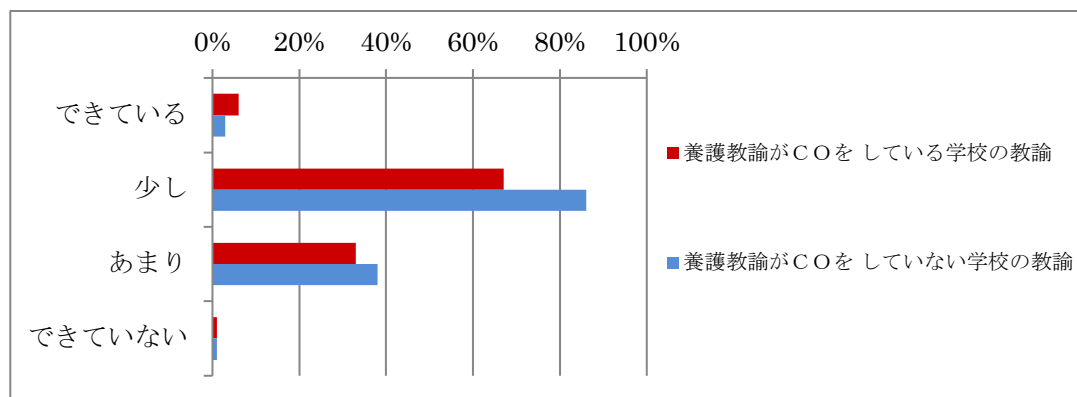
(2) 平成 30 年度 教諭対象のアンケート結果より (※C Oは特別支援教育コーディネーター)

養護教諭が コーディネーター	回答数内訳	勤務年数 1～10年	勤務年数 11～20年	勤務年数 21年以上
している	95	59%	29%	12%
していない	86	48%	25%	27%

① あなたは発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒の発達特性を理解できていると思いますか？



② あなたは発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒の発達特性に合わせた対応ができていると思いますか？



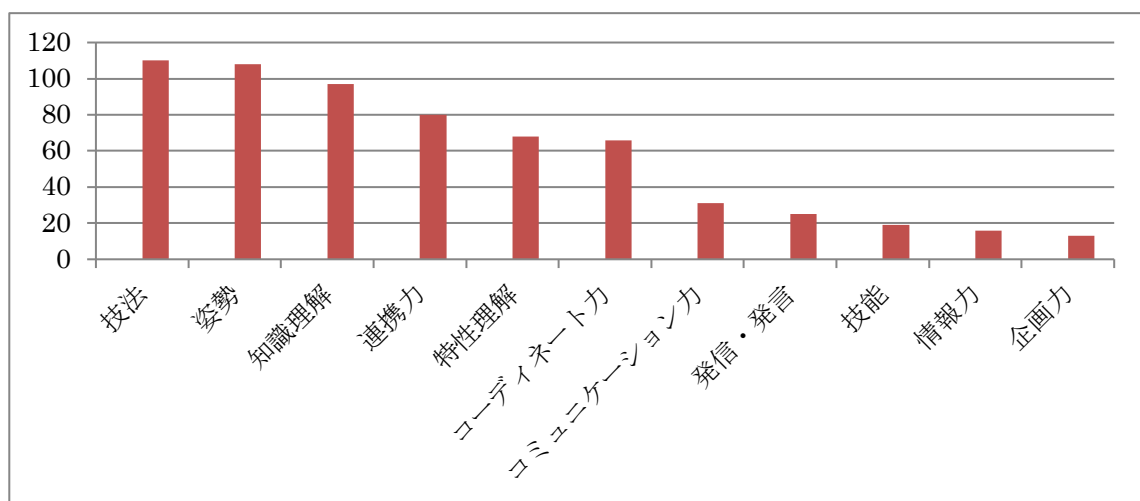
③ あなたは校内で特別支援教育に関して相談をする人は誰ですか？ (複数回答)

	養護教諭がC Oをしている学校の教諭	養護教諭がC Oをしていない学校の教諭
1 位	養護教諭 (79 名)	S C (43 名)
2 位	管理職 (39 名)	養護教諭 (35 名)
3 位	C O (33 名)	C O (31 名)
4 位	主幹・主任 (31 名)	管理職 (26 年名)
5 位	S C (30 名)	特別支援学級担任 (26 名)

④ 特別支援教育コーディネーターを担うには、どの職が適任だと思いますか？（複数回答）

	養護教諭がCOをしている学校の教諭	養護教諭がCOをしていない学校の教諭
1 位	養護教諭（73 名）	特別支援学級担任（26 名）
2 位	主幹・主任（200 名）	主幹・主任（25 日名）
3 位	特別支援学級担任（19 名）	養護教諭（20 名）
4 位	教諭（7 名）	教諭（3 名）
5 位	管理職（4 名）	管理職（3 名）

⑤ 発達障害の診断を受けている、または、その可能性のある児童・生徒に関わる上で教諭が養護教諭に期待する資質・能力（上位3つまで回答）



- 特別支援教育コーディネーターをしているかどうかに関わらず、教諭が「特別支援教育に関して主に相談する人」に、養護教諭をあげた人数が多いことから、養護教諭への期待は、特別支援教育コーディネーターをして得られたものではなく、養護教諭の特別支援教育に関する専門性が発揮されたからこそだと言える。
- 教諭から養護教諭に対する期待は大きく、養護教諭が特別支援教育に関わることで、組織がより充実した役割を果たせる。それは、養護教諭に対する専門性が特別支援教育を推進する中で発揮されることによって、さらに高まるものと考えられる。
- 養護教諭に期待される働きを、教諭がどのように捉えているかが分かったことで、これまでの特別支援教育の推進における養護教諭の活躍が明らかになった。
- 養護教諭と教諭の双方から比較分析することで、特別支援教育において養護教諭に期待され、求められる資質・能力が明らかになった。

(3) 実践研究の結果

①「養護教諭のための特別支援教育チェックシート」について

チェックシートの項目は、平成 29 年度に実施したアンケートより抽出した言葉から、類似したものを分類したカテゴリーを軸に作成した。養護教諭の特別支援教育の実践における基礎的・基本的な内容をふまえた「basic（ベーシック）」と、さらに発展した対応の「advanced（アドバンス）」の 2 種類からなり、4 段階でチェックでき、カテゴリーごとや全体の点数評価もでき、自身の課題を明確化できるようになっている。

②事例編について

平成 29 年度のアンケートの設問に、詳しい回答のあった方を追跡調査の対象とし、聞き取り調査を実施した。すでに多くの養護教諭が取り組んでいる事例を、専門家の助言も踏まえ、広く現場で活用できるものとした。事例には、基本的な配慮事項や、支援のステップアップをはかれる内容も取り入れている。（例：クールダウン、保健行事、健康相談など）

③資料編について

チェックシート項目の課題解決の方策として、事例編で取り上げていないものを編集した。また、参考資料や研究部員の推薦図書、研修情報などの紹介を加え、養護教諭の支援ツールになる資料を掲載した。

5 総合考察

特別支援教育における「チームとしての学校」の一員である養護教諭の実態として、次のことが研究により明らかになった。まず、特別支援教育コーディネーターを兼務する養護教諭が多く、任命される背景には、養護教諭のもつ専門性が、特別支援教育の推進に重要な役割を果たし、その働きが評価されているからだと推察される。また、養護教諭は、特別支援教育コーディネーターの任命に関わらず、特別な支援を必要とする児童・生徒に関わることは多く、特別支援教育を推進していく上でのキーパーソンとして期待されていると考えられる。校種によって、その関わり方に違いはあるが、養護教諭のもつ専門性は共通している。

その反面、養護教諭にとっては、「チームとしての学校」の中で調整的な役割をもつはずが、特別支援教育コーディネーターとして中心的役割を担うことで、本来あるべき学校保健活動の役割が十分に果たせないと感じる実態がある。

そのような、養護教諭の声にスポットをあて、本来の職務における専門性を高めながら、校内での役割を果たしていくことができないかと考え、2 年間の研究に取り組んだ。

実践研究の結果で示した、養護教諭のための特別支援教育チェックシート、事例編、資料編の 3 点からなるサポートブックは、養護教諭に行ったアンケート結果が基になっている。それは、各学校で日々奮闘する養護教諭たちの声であり、同様の課題に直面した時に、課題解決のヒントになるはずである。

ガイドライン等で、特別支援教育における養護教諭の役割が明記されたものはあったが、養護教諭自身が職務を振り返ることができるツールは貴重である。このチェックシートは本研究ならではのものであり、特別な配慮を要する場合だけでなく、ユニバーサルデザインの効果をもつ実践も取り上げている。

「チームとしての学校」の中で、養護教諭の専門性を生かし、「養護教諭だからできること」を追求するために、この 2 年間の研究成果が一助となれば幸いである。